【姫路市立莇野小学校】の取組

「ICT を活用した新しい時代の学び」に関する研究

～１人１台端末の活用～

１　主な取組

（１）１人１台端末の取組

２年生の学びタイムの様子

５月下旬、新型コロナウイルスによる臨時休業中の登校日から、１人１台 Chromebook の取組が始まった。

取組にあたり、目標として「児童が登校してきたら、自分で Chromebook を持ち出して学習などに利用し、しまって帰る生活」を教職員で共通理解をした。

「パスワードが入力できないのではないか？」など、教師の心配をよそに児童はどんどん慣れて自然に使えるようになった。また、授業の活用を交流することで教員も次第に授業の中で Chromebook を活用できるようになってきた。

（２）学校端末 Chromebook の持ち帰り

令和２年 12 月 18 日から、全学年の Chromebook 持ち帰りを市内で初めて実施した。

Chromebook の持ち帰りは、学校から提示された課題以外にも児童が自ら課題を選択し解決したり、ドリル学習ソフトなどを用いて個々のペースで学習したりして、学習意欲や基礎学力を高めることを目指して実施している。

１年生　初めての持ち帰り

２　取組の背景

莇野小学校は姫路市北部の夢前町にある、全校児童 32 名と姫路市で一番小さな学校である。地域では少子高齢化が進む中、地域活性化への取組が活発に進められ、小学校存続の取組が進められている。児童は純朴で素直、まじめな生活態度の子が多い。しかし、小規模校ゆえ、交友関係が限定されやすく、多様な考え方に触れる機会が少なくなりがちである。また、多人数の前では自己主張や自己表現ができにくい面が見受けられる。

これまで地域の方々の協力を得ながら、積極的に体験活動・表現活動を取り入れ、人とのふれあいを通して自分の思いを表現する場を確保してきた。さらに ICT を活用した個別指導を行うことにより、きめ細かい指導ができるという小規模校のメリットを十分生かすとともに、小規模校のデメリットとされる、多様な意見に触れる機会の不足を補う取組やコミュニケーション力を高める取組を進めていきたいと考えた。

３　取組の経緯

令和２年度の取組

（１）Chromebook を使ってみよう

５月、臨時休業中の登校日を使って、Chromebook 使用に際する指導内容を、絶対に必要な起動やメールの開封、ホームページの閲覧など８項目に絞り体験させることにした。まず校長か

ら全児童にメールを送り、その内容に従って担任が指導した。どの学年も２時間程度で終了し、６月の学校再開前には全児童が一通り Chromebook を使えるようになった。低学年は ID・パスワードの入力に時間がかかったものの、どの学年もできた子ができない子をサポートすることが自然にできていたのが印象的だった。そして、使い始めて１か月もすると、低学年も含めて Chromebook の立ち上げで困る児童はいなくなった。

（２）Chromebook を自由に使えるように

７月、教室の電子黒板下のロッカーに、AC アダプターを入れて Chromebook を保管することにした。保管や持ち出しのルールを決めて、児童が自由に Chromebook を持ち出せるようにした。自由に使えるようになってしばらくの間は、高学年を中心に休み時間にゲームをする光景が見られたが、担任が１日１回は外に出るようにと誘うことで目立たなくなった。朝登校したら、自分で Chromebook を出して、お気に入りのウェブサイトを探したり、朝学習などに取り組んだりする姿も見られるようになった。

教室の電子黒板のロッカー

（３）Chromebook を授業で使おう

６月下旬から週１回 ICT 支援員の派遣を要請し、教員のスキルは確実に上がっていった。一方、基本的な使い方で迷っていて、なかなか実践に踏み出せない教員もいた。そこで、支援員に訪問日の放課後、ミニ研修（15 分）を依頼し、教員からの質問事項や Google Classroom、Google Jamboard などの使い方を指導していただいた。また研修部より、各々授業の中でどのように Chromebook を使っているのかを交流したいという意見が出て、交流会を持つことになった。交流会は、お互いの実践を知る良い機会になり、授業で Chromebook を活用するハードルを下げることができた。

○１月の交流会より（高学年の一部）
算数　ジャムボードを使って　公約数　平均　図形の求積と証明（自分の考えを書く）
外国語　ジャムボードで外国のポスターを作ろう、英語でスピーチ
総合　スライドで発表　世界の食べ物　フォームで友達に質問してグラフを作成
理科　星の動き　雲の観察　気象予想図をコピーして天気を考える
国語　人権作文（先生が添削できる）　伝記を読んで感想を書こう、文章を要約する授業（ドキュメント　班での共同編集）
行事　自然学校３校合同でミートを使って事後報告会　スライドを３校で共同編集

〔授業実践の一部〕

○２年算数「図形の敷き詰め（三角形と四角形）」
長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めて模様をつくり、いろいろな図形を見つけることで、平面図形の性質に気づかせる教材である。Google Jamboard のコピー＆ペーストを使うことで図形が容易に作成できるとともに、他の児童と自分の作品を共有し、比較することができた。

○５年算数「台形の面積の求め方」
今までは授業でお互いの考えを共有しようとすると、どうしても一斉授業になった。しかし、Google Jamboard を使うことで、各々の解き方や考え方を見ることが容易にでき、共有することができた。

（４）Chromebook 持ち帰り

Chromebook の持ち帰りに向けて、「事例で学ぶネットモラル」を用いてネットルールについての授業を全校で行い、その内容を児童に各家庭に持ち帰らせ、「わが家のインターネットルール」を親子で決め、家庭でも見守っていただく体制をつくった。

そして、令和２年 12 月 18 日から全校生の Chromebook の持ち帰りを実施した。後日実施した Google フォームによるアンケートには、各家庭でのトラブルはなく、活用に前向きな意見が多く寄せられた。日常的な持ち帰りを実施してから１年が過ぎたが、児童は当たり前のように家庭でも Chromebook を使い、各学年の課題や調べ学習に取り組んだり、Classroom や Meet を活用して連絡や情報交換等を行ったりしている。

令和３年度の取組

取組２年目となり、授業や休み時間などあらゆる時間で、児童が Chromebook を文房具のように自然に活用できるようになってきた。そこで、今年度は、小規模校のデメリットを克服するため、ICT を活かした「つながり」をテーマに取り組んだ。

（１）莇野っ子のつながり

学年を越えた学び合い

〇縦の学年のつながりの深さ

写真は、２年生児童が１年生児童に Chromebook の使い方を教えている場面である。下級生は少し上のお兄ちゃんやお姉ちゃんたちに教えてもらうことがうれしく、上級生にとっても大きな学びになる。

〇「表現活動発表会」での活用

授業や行事の活用も進み、特に「表現活動発表会」では、高学年が自分たちの演技を録画し、相互評価に活用した。歌あり踊りありの音楽劇において、自分たちで課題を見つけて話し合い、表現の工夫を高めることができた。

（２）新たな仲間とのつながり

遠隔授業により「リモート句会」に取り組む様子

〇遠隔合同授業「自然学校リモート発表会」「国語科　リモート句会」

小規模校の「多様な意見に触れる機会が少ない」という課題を解消すべく、遠隔合同授業に取り組んだ。

他校の児童と、あたかも同じ空間にいるように一緒に学習する機会をもつことができた。画面の向こうにいる新たな仲間と、時間や意見を共有できたことは、大変有意義な取組だった。

（３）ふるさと莇野とのつながり

「ふるさと莇野」を PR するための CM づくりに取り組む様子

〇総合的な学習の時間「莇野観光大使になろう～莇野 PR プロジェクト～」

ふるさと莇野を、もっとよいまちにするために自分たちにできることはないかと考え、地域や地域以外の方々に PR する取組を進めた。莇野のよさをスライドにまとめたり、Screencastify を使って CM 制作に取り組んだりした。ICT の活用により、主体的に考え、話し合って工夫する姿が多く見られた。

４　変容

（１）子供たちの変容

１人１台、全校児童の持ち帰りにより、ICT 機器を日常的に活用することができるようになった。ICT 機器を活用した学習状況に関するアンケートで「ICT 機器を、友達と意見を交換したり調べたりするために週１回以上使用している」という設問に対して、87％の児童ができたと答えている。そして、何よりも様々な人々とのつながりを深めることができたのが一番の成果である。「いつもより多くの意見が聞けた」「次はいつ一緒に授業できるかな」とうれしそうに話す児童の姿に、遠隔教育の可能性と ICT の温かさ強く感じることができた。

（２）教職員の変容

ICT 支援員の定期的な指導を受けることで、本校の教職員は、学習目標達成のため「こんな使い方をしたら、効果的だった」ということを試行錯誤し続けることができた。さらに、できたことをお互いに交流することで、学習目標達成のために具体的な授業場面を想定し、どのように Chromebook を使うかを考えることができるようになってきた。今では、Chromebook や電子黒板を授業に取り入れることが当たり前になってきている。

（３）学校の変容

本校の ICT を活用した学習場面は、教員の教材提示による一斉指導やドリル学習ソフトを利用した学習などの個別学習から、グループでの意見交換、共同編集、他校との遠隔授業など、児童の思考力・判断力・表現力を育てる協働学習へと実践の幅を広げることができた。また、本校のドリル学習ソフトの児童使用率は高い。朝の学習タイムの時間や授業の隙間の時間に積極的に活用している。学期ごとに行ったドリル学習ソフトの定着度調査からも児童の基礎学力定着の効果が確認できた。さらに、本校は小規模特認校として魅力ある学校を目指しているが、その特色の一つに「ICT を活用した教育」を標榜することで、教職員の中に様々な課題に挑戦していく機運が高まった。

５　見えてきた課題

持ち帰った際の家庭での利用の仕方や情報モラル、児童一人一人の活用能力については、今後も継続した手立てが必要である。また、ICT 機器を活用する上で、教育の本来の目的を揺るがずにもち進めることは、大きな課題であるといえる。児童自身が ICT 機器を目的とせず、たくさんある道具の中の一つとして取捨選択できるような力を育てるべく、さらなる実践を進めていきたい。そのためにも、確固たるめあてをもった学びの場を設定することが、私達の価値ある仕事なのだと考える。

６　莇野小学校が目指す「ICT を活用した新しい時代の学び」

子供たちにとって、ますますコンピュータは文房具のような存在になっていくだろう。先生の指示がなくても、学習の中で子供が必要に応じて自分で判断し、しかも安全に使いこなせる状況になるまで、情報活用能力を高めていきたい。また、ICT を活用した授業や学習活動はどんどん広がっていくだろう。複式授業の間接指導や個に応じた教育、特別支援教育などへの活用ができないか検討していく。さらに、小規模校の課題克服のため、これからも遠隔双方向教育を活用し、小規模校同士の交流を図ったり、離れた場所の学校と教育活動や授業をオンラインで実施したりすることも進めていきたい。